



My Photo Corner
「私は誰でしょう」
さて私は誰でしょう。
6月の私は菅谷正ワイズでした

HAPPY BIRTHDAY
7月19日 藤間 孝夫
MENETTES HAPPY BIRTHDAY
26日 藤井 正子

熱海YMCA 俳句 六月例会
兼題 風薫る(薫風) 燕子

風薫る 光まばゆい 川面かな
薫風や 無口が続く 待合室
薫風や 君の帽子の 浅くなり
子燕の 並んでねむる 無人駅
風薫る 友さりがなく 立ち寄りて
ワイズメンの 偉業成しとげ 風かほる
風薫る 病院の窓 積み重ね 光る海
実梅もぎ 龍に追憶 積み重ね 光る海
薫風や ことばのいらぬ ベンチかな
和子 治 正子 銀次郎 廣子 道子 のり夫 隆吉 博

第1回 役員会報告

書記 宝田昌孝
2017年7月2日

勝又会長挨拶:最終例会ご苦労様でした。
「謙虚に学び謙虚に奉仕」を方針として一周年活動した。会員数が少ないので今後の事業どのようにするか、その都度検討したいので、宜しくお願い致します。

- 議題
- 初例会の件:今日現在3クラブの訪問予定ですが、各クラブに訪問要請をお願いする。
 - 合同記者会見の件:今期は熱海グローリーがホスト
7月4日(火)13:30~YMCAセンターで行う。
 - 新入会員候補者推薦の件:推薦者 小野田政弘君
高橋四郎君の入会を承認。尚、インフォメーションは7月21日(金)19時YMCAセンターに予定。
 - その他:委員会報告書各委員長に配布。次年度の引き継ぎの参考として。

☆委員会報告
プログラム:齋藤市長栄市長、藤曲敬宏県会議員の来賓のお願い。
ドライバー:例会設営の検討。

会報・広報:会報のネット掲載一部検討
18日(火)プリテン校正、発送。
親 睦:特に無し。

CS・TOF:子ども料理教室8月5日(土)。
EMC・会則・YMCA:インフォメーション
21日(:金)19時~YMCAセンター。
BF・IBC・DBC:使用済み切手、プルタブの収集を行う。
その他:春の親睦バス旅行収支報告書提出
「遠州奥浜名湖巡り」大好評でした。

今後のイベント情報
◎子ども料理教室:8月5日(土)いきいきプラザ
10時~14時小学3~中学3年生まで
親子で楽しむ教室です<夜は、熱海海上花火大会です>
◎納涼例会は家族ぐるみ:8月23日(水)18時30分~
◎第40回富士山部役員・評議会13時30分~、
懇親会15時~:9月24日(日):KKRホテル熱海

2017年8月 納涼例会担当予告
例会日 8月23日(水) 会場 未定
受付 綾野 憲夫君 池島 恒夫君
司会 菅谷 正君 開会の祈り 加藤 博 君
ワイズの信条 中田 稔君 食前の祈り 小野田政弘君
閉会の言葉 藤井 銀次郎君

"To ACKNOWLEDGE THE DUTY THAT ACCOMPANIES EVERY RIGHT" (International Motto)
THE SERVICE CLUB OF THE Y M C A
2017
7
No. 395
CHATERED 2.May.1984 P.O.BOX 44ATAMI 熱海郵便局私書箱44号

国際会長主題
"Let Us Walk in the Light - Together"
『ともに、光の中に歩もう』
東日本区理事主題
『広げよう ワイズの仲間』
"Extension Membership & Conservation!"

今月の聖句
わたしたちは、与えられた恵みによってそれぞれ異なった賜物を持っていますから奉仕の賜り物を受けていれば奉仕を、教える人は教える、勉める人は勉めに精を出しなさい。また指導するひとは熱心に指導し、慈善を行う人は快く行いなさい
ローマ人への手紙 第12章6節

アジア地域会長主題
"Respect Y's Movement"
『ワイズ運動を尊重しよう』
富士山部部長主題
『生き生き仲良し 富士山倶楽部』
"Lovely & Young-at-heart, Fujisan clubs"

クラブ会長主題
"Modest Learn Modest servis"
『謙虚に学び 謙虚に奉仕』

2017年7月初例会プログラム日

日 時	7月 26日(水)	18:30~21:00
会 場	熱海KKRホテル	
受付司会	江間 一 君	高橋 敏雄 君 山際 正道 君
開会点鐘	会 長	勝又 隆吉 君
聖句朗読・開会の祈り		藤間 孝夫 君
ワイズソング	全 員	
ワイズの信条	会 長	陣内 康策 君
会長挨拶	会 長	勝又 隆吉 君
ゲスト・ビジター紹介		
来賓挨拶	熱海市長	齋藤 栄 様
	東日本区理事	栗本 治郎 様
富士山部部長公式訪問	部 長	加藤 博 君
食前の祈り・乾杯	幹 事	藤曲 敬宏 君
	会食	
各クラブ会長挨拶		
書記報告	書 記	宝田 昌孝 君
入会式	EMC委員長	藤曲 敬宏 君
委員会報告		各委員会
誕生日・結婚記念日		司会者
スマイル		親睦委員会
出席・スマイル・基金報告		担当委員会
閉会の言葉		鈴木規雄 君
閉会点鐘	会 長	勝又 隆吉 君

2017年6月例会報告

親睦委員長 藤曲敬宏
2016年度最終例会が熱海KKRホテルにて勝又隆吉会長代行の点鐘で開会しました。司会は高橋敏雄君。聖句朗読、開会の祈りを藤間孝夫君、ワイズソングを全員で斉唱した後、ワイズの信条を小野田政弘君の音頭で読み上げました。
会長挨拶で壇上に立った勝又隆吉会長代行は、この1年間を振り返り現職の谷口泰幸会長やミスターワイズと呼ばれた竹内敏朗君の逝去など、様々なことがありメンバーにとっても忘れられない出来事が数多くあったと回想され、その中でグローリーの皆さんに支えられ、何とか会長代行を務めることができたことと感謝の意を述べました。
その後、書記報告、委員会報告、誕生日、結婚記念日のお祝いと続き、閉会点鐘でいったん一部の例会を閉めました。
引き続き、ギャベルの引継ぎ式が行われ、直前会長の藤曲敬宏君から27年度会長となる勝又隆吉君に改めてギャベルが手渡されました。
併せて同じく直前会長の藤曲敬宏君から三役の故谷口会長、勝又書記、陣内会計にそれぞれ感謝状が贈呈されました。故谷口泰幸君には後日ご家族に手渡される旨も伝えられました。
定時総会では、次期予算案、事業計画案が諮られ、無事全会一致で承認されました。
二部では今期役員慰労会が行われ、勝又会長代行の挨拶、鈴木健之君の食前の祈り、藤井銀次郎君の乾杯と続き、ゲストビジターがどなたもいなかったこともあり、会員水入らずの打ち解けた慰労会となりました。

6月例会実績

在籍者	19名 (内セニア会員3名)	スマイル&YMCA 基金	BF 目標	1人 8,000pt
出席者	16名	スマイル	現金 pt	切手 P
メーキャップ	1名	スマイル累計	6月	17,000円
出席率	100%	YMCA 基金	累計	195,000円
3月訂正出席率	%	YMCA 基金累計	総計	505,501円
		スマイル		
		ゲスト		
		ビジター		
		メネット		
		出席者合計		



最終例会写真集

次期も仲良くワイズに励みましょう。



富士山部第1回役員会・評議会

富士山部書記 陣内康策

2017年7月1日13時30分より、YMCAセンターに於いて40名強の富士山部の役員を集めて、第1回目の役員会・評議会が開かれました。

部書記の陣内康策ワイズの司会で始まり、ホストクラブの熱海グローリー会長：勝又隆吉ワイズの開会の辞、富士山部部長：加藤博ワイズの挨拶が有り、報告事項と続き議案の審議に入りました。

第1号議案 2017～2018年度の会計予算訂正承認の件については、一般会計の東日本区補助金が前年度300円が500円に増額され38,400円増額のと成りましたのでこの

資金約40,000を新科目「エクステンション活動費」として計上し総額141,000としましたことを、承認して頂きました。

第2号議案 2017～2018年度事業主査・クラブ会長活動方針は議案書通り承認されました。

連絡事項、閉会の辞、閉会点鐘で役員会は終了しました。

つづいて会場をホールに移し評議会が開催されました。報告事項として東日本区報告と前期半年集計系状況報告があり。議案は役員会で承認された内容が提案され評議会でも承認されました。次期富士山部部長渡邊実帆ワイズの閉会の辞、富士山部部長加藤博の閉会点鐘で滞りなく終了致しました。

閉会後懇親会が開かれ、弁当をつきながら各クラブとの連絡方法や抱えている課題をテーマに意見交換が行われました。



熱海YMCA合唱団慰問演奏会

会報広報委員会

6月30日16時よりワイズメン、メネットが活動する合唱団「花袖」18名と「鼓勇」10名の慰問演奏会が《海に見える病院》で七夕コンサートとして開催されました。

この病院は比較的新しく開院された施設で、瀟洒な建物は清潔感にあふれ、眺望もまた素晴らしく、入所者の心とらげる環境に恵まれております。



開演の間際になると、スタッフに誘導されて車椅子やベッドのまま院内のホールに続々と集まりはじまりました。皆さん、単調な日常の療養生活の中での

ひと時を楽しもうと期待にあふれる様子でした。

そして、開演、各メンバーは正装に身を包み日頃の練習の成果を1時間にわたり15曲を披露されました。最後は観客も交えて「上を向いて歩こう」を合唱し大いに盛り上がったファイナーレになりました。



左から3人目陣内、藤間、山際の各氏

合同記者会見

会報広報副委員長 小野田政弘

7月4日(火)13時30分、当クラブがホストクラブとなり熱海クラブと合同でYMCAセンターに於いて年度始めの記者会見を行いました。

熱海クラブからは山崎会長、栗本日本区理事を含め8名、当クラブは勝又会長他4名が出席しました。報道関係は熱海新聞、伊豆毎日新聞、伊豆急ケーブルネットが参加されました。

両クラブ会長より各々今年度の事業計画の発表がありその内容についての質疑がありました。また今年度日本区理事を務めるの栗本ワイズからエクステンションについての説明がありました。また、小野田副委員長より奉仕活動の成果を高めるために今後とも密接な協力体制を維持してもらえよう機関に依頼した。



後列左から 宝田、小野田 陣内、札埜 大川、 鈴木(恵)、鈴木

前列左から 藤間、勝又 山崎、栗本

いずみハルカスガーデン

会報広報委員会

ハルカスガーデンって何だ。藤曲ワイズに紹介されるまで正直これまでその存在を全く知りませんでした。

概要をいいますと、泉地区の65歳以上の高齢者がNPO法人を組織し、6000坪の土地に山上ガーデンを作り、無料で一般公開しているという事なのですが語りつくせないものが沢山ありました。

以下は綾野、小野田がアポなしで突然訪問した時の報告です。当日は梅雨の晴れ間の蒸し暑い日でしたが、標高300メートルのこの地は、日陰に入るとさわやかな風が吹き抜け、木立を抜ける風の音と蝉しぐれの合奏が得も言われぬハーモニーとなり我々を迎えてくれました。

河村理事長と立石相談役は毎週水曜日の定例会を中座して、案内に当たっていただきました。

この300メートルの高地から見下ろす湯河原の街、真鶴半島の景観は圧巻でした。



ハルカスの丘からの眺望

園内には覚えきれないほどの花の種類がありましたが、今日は紫色のアガパンサスの花が盛りでした。また、この園地は会員の生きがい探しのフィールドでもあるので野菜、果物栽培も多くみられ、ナス、トマトから園芸用ハウスの中ではメロンも栽培されておりました。最近では収益事業として養蜂事業を始め、昨年8月には「熱海ハルカスガーデンの純粋蜂蜜」として熱海ブランドの認定も受けて売り出しました。

さてこれだけの施設を高齢者だけでどうして作り上げることができたのでしょうか。興味は尽きません。

立石相談役のお話を要約すると以下のような事でした。

- ①ミカン山整備のための農道が24年がかりで整備される。
- ②かんきつ類自由化で畑が放棄され農道が散歩道に変質。
- ③環境整備のため有志が農道沿いに桜の植樹開始。
- ④みかん山が荒れイノシシの巣になり環境が悪化した。
- ⑤対策として樹木の伐採をすると素晴らしい眺望が出現。
- ⑥それを活かすため2000年NPOを設立、花壇整備開始。
- ⑦土地の買収、園内の道路整備をすすめ2014年完成。
- ⑧開始以来、皆さんの資金・労力と善意に支えられてきた。

時代環境が激変する中で今日の姿にたどり着くまでのご苦労は如何ばかりのものであったか、想像の域を超えております。しかし大正生まれの相談役は「今でもお金のことでの悩みは尽きず、会社をやっていた時のほうがよほど楽だった」と言い、それが生きがいに繋がっているのかも続けられた。

我々ワイズの活動にも通ずるものがあり、今後のわがクラブの運営にも大いに参考になるものがありました。メンバーの皆様、一度訪ねてみてください。

所在 熱海市泉 256-1 090-5764-8062

“熱海の砂浜が残った”

BF.EF.IBC.DBC.YEEP委員 藤井銀次郎

熱海線が開通し熱海駅の開業と共に地価が上がってきました。そこに投資家が殺到し、分譲地だけで無く海岸の埋め立ても計画されるようになってきました。

大正10年7月に熱海地先海岸5万9千坪、海岸から60間沖合までの埋め立てが出願されました。

熱海町民は、埋め立てに反対でしたが、条件をつけて承認しました。ところが静岡県では無条件で埋め立て許可を出してしまいました。

昭和4年3月、埋め立ての権利は熱海埋立会社に譲渡されました。工事は八幡山の土砂を削り出しトロッコで前浜まで運び本格的に埋め立て工事を着工しました。昭和4年9月には熱海町民の反対運動は、埋め立て工事の着工と同時に激化していきました。埋立会社は、町民の死に物狂いの反対運動の中でも着々と工事を進めていたので熱海町は曾我に通ずる道路延長150間と多賀への県道60間の道路二カ所に対して現状維持の仮処分を申請しました。

しかし、県土木課の意向は変えられず、工事は進むばかりでした。これに不満を抱いた過激埋立反対運動

は、ここで最高潮に達したのです。



熱海のシンボル、サンビーチは海水浴客で今日も賑わう。

昭和4年11月22日、陸軍大演習を終え水戸から東京に帰って来た天皇の自動車

が、午後3時27分、上野公園内の精養軒入り口の道路にさしかかった際、最前部にいた青年服の男が突然ポケットから奉書に認めた直訴文を取り出して30センチ程列外に飛び出しましたが天皇の車は少しの支障も無く無事通過しました。

取り調べの結果この青年は熱海町の熱海海岸埋立反対実行委員代表の「あらき」製綿業を営む荒木一作(当時22歳)でした。熱海埋立反対協議委員でも有り、丙午クラス(当時は干支で学校のクラス分けをしていた)の代表でもあり人望もあった。

その日の早朝、同志と相談し上野に降り立ち、埋立反対派の直訴文を渡すつもりでしたと上野署での取り調べに答えた。結果的に4ヶ月の拘留をうけて厳重注意の上釈放されました。

この状況を収束させるため町と埋立会社との直接交渉によってやっと妥協点が見い出され、現在の砂浜が残る事に成りました。この話に出てくる「あらき」製綿業を継いだのが私であり、「あらき布団店」となって現在に至っています。